全国国立病院療養所放射線技師会の医療安全に対する取り組み

全国国立病院療養所放射線技師会
会長　阿部　容久

全国国立病院療養所放射線技師会は1957年4月に設立された、会員数1527名（平成23年11月）の組織で全国8つの地区会から構成されています。
本会は、会員相互の職業倫理を高揚し、放射線技術の向上発展と放射線障害の防止に努め、以て国民の医療及び保健の維持発展に寄与することを目的としており、また「心ゆたかな医療の実践」－放射線業務の再構築－　医療事故ゼロ運動　をテーマとしておりますので、医療安全全国共同行動の趣旨に賛同し参加登録をさせていただきました。
さて医療安全への取り組みですが、PARTNRS＋１の9つの行動目標の中には診療放射線技師が積極的に関与できるように設定されているものはありません。もちろん医療機器の安全管理という目標のとおり放射線機器の管理は積極的におこなっています。しかしこの行動目標は具体的に人工呼吸器・輸液ポンプの安全管理を示しています。そこで今回の報告は全国国立病院療養所放射線技師会の日頃行っている医療安全に関する活動を全般的に紹介します。

１.医療安全セミナーの開催

毎年わたくし共、全国国立病院療養所放射線技師会と全国国立大学放射線技師会との共同開催で医療安全セミナーを開催しています。どちらの会も全国組織ですが文科省管轄の国立大学病院と厚労省管轄の国立病院ということもあり、別視点から医療安全や会の運営を見られることがあるのではないかと、以前より交流がありました。数年前医療安全についての活動を共に開催することにより、さらなる情報の交換と患者のための医療の提供が目指せると意見が一致しこのセミナーを立ち上げ活動しています。
ただし、お互い全国組織ですが大きな会場を抑える予算はありませんので少人数の開催になってしまいます。そこで、本会のWEBサイトには会員向けに医療安全セミナーの資料をそのまま掲載しています。会員の皆様が個々で確認出来るとともに医療安全セミナーの参加者は各地区に戻ってこのセミナーの伝達講習をしています。このための資料としても役だっていると思います。セミナー参加者の皆さんは非常に熱心に伝達を行い、会員すみずみまでセミナーの内容が行き届いています。

２.WEBでの医療安全情報

当会のホームページは医療安全全国共同行動の紹介とPARTNERS＋１の9つの行動目標が開くように設定しています。以前医療安全全国共同行動からいただいた感謝状も掲載しています。医療安全全国共同行動のサイトへはリンク集から入って行くことができるよう設定しています。反対に医療安全全国共同行動のサイトから当会のサイトへリンクされていますし（パートナーズ⇒参加団体⇒全国国立病院療養所放射線技師会）URLは　http://www.nhort.jp/　ですので一度御覧ください。

また会員専用ページには、最近の医療安全情報を掲載しています。最近ではMRI検査時に経皮吸収剤を使用していると熱傷のおそれがあることなど、会員から寄せられた情報やメーカーからもたらされた情報など様々な情報源から会員の皆様に情報提供を行い医療事故の起こらないよう注意を投げかけています。もちろん最初に紹介した医療安全セミナーの資料も医療安全情報の１つと考えています。

３.会誌での情報

全国国立病院放射線技師会では年４回の会誌の発行を行なっています。この中には、最初に紹介した当会のテーマ「心ゆたかな医療の実践」－放射線業務の再構築－　医療事故ゼロ運動が表紙の裏面に必ず掲載されています。診療放射線技師は医療事故のないように普段の業務を行うと共に、放射線機器の管理はもちろん、放射線そのものの全般的管理を行なっています。その管理全てが医療安全につながると考えています。したがってどんな場面でも医療安全という言葉が不要なところはありません。会誌は学術的情報、会の活動の報告など、区分けされていますが、最初にこのテーマが記されているのは、どんな内容にも伴う大事なテーマだからです。さて、医療安全を取り上げる「医療安全」コーナーは様々な情報を掲載しています。この医療安全全国共同行動の報告も掲載されますし、WEBでも掲載した医療安全情報や会員への啓蒙も掲載されています。会誌は会員の皆様全員の手元に届き、検索する必要も、パスワードも必要ないので、身近においてさっと眼を通せる利点があります。リアルタイムなのはWEBですがこういった点からも会誌に掲載する「医療安全」コーナーは重要な医療安全活動と考えています。

最後になりましたが、この会は８つの地区会から構成されていると紹介しました。それぞれの地区により所属する会員数は異なりますが、どの地区も積極的に学術活動、医療安全活動を、すべての患者様やそのご家族のため、さらに国民全体の医療、保健のためと行なっています。